

長瀬延沢左次上山村小氏家管拍す稍白
岩以下の玄馳集りて其勢頗合三万餘騎に
あーハ朽てけ勢を奪お丸は伝吏郡一
まーして山陸原を上洛せんとせしむと云く
以上二十三年所尚西の武士なり西人とは
朝家より立置れ一人をいふ天正五年の次
室上家と上杉家と合戦する事なくあり
尚城城後一得する時ハ城後より城代を
至室上家一得する時ハ室上家より城代
を至

一城代

案より天正十三四年より十七年迄まで
上杉家より其糟値後守を城代とす翌十
八年川村玄義志田修親交之羽原記尾浦
城代の案下に其城後より其糟値後守
并城代年並敗を司文武惣値一侍
一羽原守の意化堂を造営一神社を設
ひる姓を撫育一徳を全境に混むと云く
尾内記亦に尾浦城代の事見之を伝正曰
今沼田城中に跡あり所の教具是のうち其糟